

令和 6 年度 県立並木中等教育学校自己評価表

目指す学校像	1 体験・経験を重視した学習活動を通して広く人間教育を行う学校 2 筑波研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学、研究機関、保護者、卒業生と連携して科学教育を行う学校 3 外国からの研究者・留学生、インターナショナルスクールとの交流や海外語学研修などを通して、国際教育を行う学校				
三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	協働と連携を通して磨いた探究的・創造力を生かし、次代を牽引するグローバル・リーダーの育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	中高一貫校の蓄積と実績を基に、難関大学や医学部等、多様な志望に対応できる、多彩なカリキュラムを通した進路実現			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	様々な分野に関心をもって他者と関わる中で、自分の見識をより広げ深めていこうとする探究心・向学心のある生徒			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
本校では、中高一貫教育の利点を生かし、系統的なカリキュラムを構築し、「アクティブ・ラーニング」を積極的に取り入れた授業実践を行っている。生徒が学習活動の中で、考えを表現しあったり、納得解を求めて議論したりすることが増えた。その結果、生徒の発達段階に応じた「論理力」や「表現力」の高まりが見られた。理数探究カリキュラムが充実し、生徒が学びを深める場が授業の中に設けられている。また、外部講師を招いた課外活動についても、生徒の関心を掻き立てている。これらの場の提供が、生徒の学びに向かう姿勢を改善している。中等教育学校の特性をさらに生かすためのカリキュラム・マネジメントを行い、「学びのロードマップ」を各教科・領域等で大いに活用し、「確かな学力」の育成に向けた授業改善に努めたい。また、SSH 事業第 4 期に向けて、学校設定科目「課題探究」を中核とした「探究力・論理力」のさらなる育成を図っていきたい。		1 新時代に対応した学習の見直し（授業改善）	○協働的な学びを取り入れた授業を実施する。 ・イノベーション力を強化するための弁証法的対話を授業に導入する。 ・新学習指導要領に即した観点別評価の在り方を確立する。 ○基礎基本を活用し、思考・判断・表現を重視した学習を展開する。 ○「生徒による授業評価（授業満足度）」肯定的評価 80％以上		A
		2 志高く、進路実現に向かう生徒の育成（キャリア教育）	○体験活動を充実し 6 年間を見通した体系的なキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。 ○キャリアカウンセリングを実施し、生徒の意思を汲んだ相談を実施する。		A
		3 S S H 事業第 3 期目のさらなる充実（特色ある教育活動）	○学校設定科目「課題探究・理数探究」を中心としたカリキュラム開発を行う。 ○地域、研究所、保護者、卒業生と連携した探究力・論理力の育成を図る。		A
		4 6 年間を見通した校内体制の確立（教育活動の体系化）	○6 年間の教育活動の体系化を図り、内容を精選する。 ○カリキュラム・マネジメントにより教育活動を精選し、校内体制を確立する。 ○医学コースカリキュラムの検証を行うとともに課題をまとめる。		A
		5 業務内容の見直し（働き方改革）	○すべての教職員の超過勤務時間を 1 箇月 4 5 時間 年間 3 6 0 時間以内とする。 ○業務の精選を図ると共に会議の持ち方を工夫する。		B
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
1 校務運営部 (教務)	S S H 3 期目の目標を達成するための方策を実施しながら、授業時間の確保と行事の調整を行うことで、円滑な学校運営に努める。	S S H 関連の講演会等を総合的な学習の時間に位置づける等、年間を見通した計画的な授業時間確保を行うため、学校行事や年次行事の調整を行う。		A	試験等との日程調整
		「課題探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を効果的に実施するため、行事・日課等の計画や調整を行う。		A	行事との調整
		S S H 3 期の目的達成と 4 期を目指し、学校設定科目の新設・改良を含んだ教育課程全般を見直し、学校としての方針を明確化できる体系的なカリキュラムを作成する。		A	方針の明確化と目標達成に、向けての情報発信
	行事の精選と授業時間の確保に努め、生徒の可能性を引き出す質の高い授業を展開できる学習環境・システムを整備する。	現行の A 週 B 週 C 日課システムの利点を最大限に活かせるような、計画的運用によって授業時間の偏りを減し、バランスのとれた学習進度を維持できるよう、曜日変更や行事の調整を行い、授業改善の一助とする。		A	行事との調整
		観点別学習状況評価について理解を深め、生徒個々の学習方法のチェックに還元できる評価方法を研究する。		A	教員間の情報共有の活発化
	カリキュラム・マネジメントにより、目指す生徒像に適合した生徒を育成するため、6 年間を見通した校内体制の充実を図る。	保護者や地域に対するアンケートを実施し、学校外からの意見も取り入れていく。		A	保護者アンケートへのフィードバック
		医学コースの円滑な運営に努める。		A	外部団体との連携
		「働き方改革」を推進し、教育水準の維持向上を図るうえでも、行事の精選を行ない、業務内容を削減する。		B	ワークライフバランスの重要性についての情報発信
(総務)	本校の目指す生徒像及び教育活動の活性化を念頭に置いた選抜を行う。	それぞれの校務分掌や年次において、通年で行ってきた業務を検証し、業務の効率化を図る。		A	教員間の情報共有
		入学者選抜内規を検討する。		A	次年度も適切に対処する
	多様な手段により、本校教育活動についての広報活動をより一層充実させる。	効率的かつ正確な入試事務処理が行えるよう運営計画の工夫改善を図る。学校委員会担当者の負担軽減と業務の細分化を図る。		A	次年度も負担軽減に努める
		児童・保護者目線での学校説明会を企画する。日頃のアクティブ・ラーニングの実践や研究を生かした学校公開等の企画・立案を検討する。		A	継続して実施
		生徒の躍動感をアピールする学校案内パンフレットやリーフレットを作成する。		A	継続して取り組む
		本校の教育活動を外部に発信するツールとして見やすい HP 作成と積極的な更新を図る。		A	継続して取り組む
	儀式的行事を円滑に運営する。	始業式、終業式、入学式、卒業証書授与式、修了式等の企画・運営を円滑に行う。		A	適切な時期に行事の見直しを行う
		校内の放送機器等の整備拡充を行う。		A	次年度も適切に取り組む
(渉外)	渉外活動の充実と会員同士の親睦を図る。	P T A 総会、本部役員会及び合同役員会を企画・運営する。		A	計画的に円滑に実施する
		県高 P 連及び県西高 P 連との連携・協力を図る。		A	継続して取り組む
		年次委員会、広報委員会、研修委員会、生徒指導委員会を開催する。		A	継続して取り組む
		かえで祭（文化祭）、ウォークラリー等の学校行事へ、状況に対応しながら参加協力を考える。		A	有意義な支援となるようさらに工夫する
2 企画研究部	6 年間を見通した「課題探究」の指導体制の確立を図る。	生徒一人一人の課題探究の充実、及び指導する教員の指導力の向上を図り、年間を通して「課題探究」の授業の充実を図り、6 年間を見通した「課題探究」の指導体制の確立を図る。		A	A 課題探究チーフの引継ぎ
	S S H 事業第 3 期目の推進及び第 4 期の研究開発課題の先	中高一貫教育を活かした探究力・論理力を育成するカリキュラムの開発と教材・指導法の実践的研究の充実を図る。また、理数系グローバル・リーダーの育成に向けて、つくば市		A	4 期目に向けて計画を練る

別紙様式2（中等）

	行実施を図る。	の研究機関との連携を強化し、S T E A M教育の推進を図る。			
	ユネスコスクールとして国際教育の充実と各種海外研修の充実を図る。	ユネスコスクールとして日々の授業や様々な国際的な体験を通じ次代の日本・世界の発展を担う「人間力」を備えたグローバル・リーダー育成を図る。	A		継続して取り組む
(探究)	課題探究の運営方法・普及・評価を改善し、発展を図る。 前期課程ミニ課題探究の運営方法の系統化を図る。	①令和6年度の「理数探究」導入に向けて準備する	A	A	理数探究のカリキュラム開発の継続
		②他校に課題探究のシステムを普及する	A		探究アドバイザーの育成
		③課題探究の評価を開発する	A		評価の更なる研究
		④前期課程ミニ課題探究のカリキュラム開発を行う。ミニ課題探究の運営方法を系統化し、6年間の一貫した課題探究指導体制を確立する。	A		ミニ課題探究との接続
(SSH)	SSH第3期の研究開発課題に対する取組についてまとめ、評価を行うとともに、4期目に向けた準備を行う。	①弁証法的対話を用いた授業を研究する。	A	A	更なる授業研究の充実
		②生徒発信プロジェクトを推進する。	A		更なる活動の充実
		③SSH保護者サポーターの活動を推進する。	A		更なる活動の充実
		④HP作成等を通して、本校のSSH活動について情報を発信する。	A		更なる発信の充実
		⑤中間評価に向けて準備を行う。	A		4期目に向けての計画
		⑥4期目に向けた計画づくりを行う。	A		4期目に向けての計画
(SGS)	世界の状況（パンデミックなどによる海外渡航困難など）に柔軟に対応しながら、グローバル・リーダー育成のための国際教育活動をSSH事業と絡めて企画、実施する。国際教育・国際交流など特色ある学校づくりに貢献する。	①キャリア教育の視点や、外部機関との連携を踏まえて、各年次に最もふさわしい国際教育に関わる行事を提示し、実施する。同時に希望者対象の国際教育行事を充実させる。	A		継続して取り組む
		②本校生に適切な公的・民間機関による情報を提供し、生徒に国際交流や、国際理解、留学機会を提示する。同時にニュージーランド短期語学研修はじめ、海外長期留学から帰国してくる本校生徒がもたらすグローバルな経験を学校全体で共有できる機会を設ける。	A		継続して取り組む
		③ユネスコスクールとしてESD教育への積極的な取り組みと普及を行う。	A		継続して取り組む
3 生徒指導部 (生徒指導)	基本的生活習慣を育成し、他者との協調性を養い、社会人の1人として自律できることを目指す。	自制を心がけ、基本的生活習慣を大切にし、自主的に「挨拶をする・装を正す・時間を守る」ことを意識して生活する。	B	A	校内では概ね良好であった。校外での生徒の様子、保護者アンケートにあった内容への対策を行うことや生徒自身の自制を促すよう取り組む。
		学校生活を通して、かけがえのない、個性豊かな自分やみんなを大切する心を育む。	A		SHR や学級活動において、相互理解や共感的な人間関係の育成をさらに進める必要がある。
		マナーアップ活動を通して、社会に生きる一員として自覚ある行動を心がける。	A		保護者や外部機関と連携したマナーアップ運動を通して自覚ある行動を意識させる。
	保護者・関係諸機関との連携を密にし、問題行動の未然防止を目指す。	カウンセリングマインドをもち、生徒一人ひとりの理解に努める。	A		生徒のもつ課題を年次会で積極的に話題にし、解決に向けてチームで取り組んでいる。SC との連携、外部機関との連携も進めている。
		保護者、警察等の関係諸機関との連携・協力を図り、非行防止教室、携帯電話安全利用教室等を開催し、よりよい生活のあり方を考える機会を作る。	A		外部機関と連携して講座を年次ごとに開催することができたので、継続して開催する。
		学級活動やリーフレットを活用して、事故、いじめ、問題行動の未然防止に努める。	A		よりよい情報提供や引き続き学校生活アンケートを行うことで、未然防止に取り組む。
	安全教育の推進を図り、自己防衛意識・自己管理の育成を目指す。	警察や地域ネットワークと連携し、登下校時の立哨指導・巡回指導を計画的に実施 3 する。	A		交番との情報交換、駅周辺のコンビニエンスストアと連携して、生徒見守りネットワークを利用して生徒の様子を確認している。
		自転車安全運転教室、登校手段別集会、マナーアップ活動を通して、安全な自転車通学や公共交通機関の利用ができるよう図る。	A		学校や駅周辺での警察官や保護者と連携した立哨指導や巡回指導を実施し、地域と連携して取り組む。
		生徒会と連携し、自転車点検やポスターでの注意喚起を行い、登下校の見直しを図る。	A		引き続き、生徒会と連携し、自転車点検や登下校の安全運転を呼びかける。
	(教育相談)	心の問題を抱えている生徒の早期発見と早期対応を図る。	A		保健室、年次主任会議などを通して早期発見を図る。早期対応の一つとしてSCの活用を勧め、チーム支援の体制がとれるようにする。
		年次・保護者との連携強化を図る。	A		生徒・保護者からの相談をしっかりと受け止め、共感的理解に努める。SCへ繋いだり、SCの助言を元に医療機関を紹介していく。
		スクールカウンセラー（SC）の積極的活用を図る。	A		カウンセリング前の情報収集、後の情報と対応の共有を今後も丁寧に行う
		カウンセリングにおいて、SCと年次・担任・保健室等の間の連絡調整を支援する。	A		

別紙様式2（中等）

4 保健厚生部 （保健安全）	生徒の健康・安全・健康教育の推進に努める。	健康診断は校医と相談し、合理的且つ円滑に行い、要治療者については早期治療を徹底する。	A	A	継続して実施。
		日常的な保健室利用生徒について、年次・担任・保護者との緊密な連携を図る。	A		継続して実施。
	校舎内外の美化と安全を図る。	年次縦割りの清掃班による清掃活動の充実化を図る。	A		継続して実施。
		ワックスがけおよび清掃強化週間を実施し、校内の美化に努める。	B		継続して実施。
		危険箇所の点検を行ない、改善・修繕に努力する。	A		継続して実施。
		災害時等の対応マニュアルの見直しを行い、全職員に周知徹底する。	A		継続して実施。
		避難訓練を年2回実施する。訓練に際しては、地域との連携を図る。	A		継続して実施。
（食育）	正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身につけ、食に感謝し、楽しく食事ができるようにする。	全職員の共通理解のもと、安全と食育指導上、適切な指示をしながら給食指導を行う。	A		関係機関の協力や教員間の連携、学級担任による指導で安全な給食指導が実施できた。
		給食係や給食委員会による常時活動の活性化を図り、給食の円滑な配膳や片付けを行えるようにする。	A		適切な事前指導とフォローにより、円滑な給食指導が展開できた。
		職員も教室で生徒とともに一緒に給食を食べながら、適宜、食事のマナーの指導、栄養や食文化の理解、望ましい人間関係の育成を図る。	A		栄養教諭の講話を行った。担任の先生を中心に各学年で指導していただいた。
5 特別活動部	部活動の活発化を図る。	中等前期・後期課程の生徒を含めた中高6年間一貫の活動方法を、前年度に引き続き模索する。	A		顧問が少ないため前期課程、後期課程で合同練習を実施している部もあり、活動場所の割り降りにも課題がある。
		部活動における質の高い活動を推進し、個の育成と集団のレベルアップを図る。	A		部活動改革により、数多くの制限がある中での効率的な活動方法を考えていきたい。
		部顧問の適切な配置、部活の数の適正化を図り、学校全体としての指導体制をより充実させる。	B		前期・後期、及び主顧問と副顧問の連携を充実させ、より良い指導体制を築いていく。
		部活動の地域移行を1部の部で推進する。	B		今後の、地域移行の様子をみながら検討していく。
	主体性のある生徒会活動を推進する。	生徒会役員が、主体性を持って生徒会活動を進められるようにする。	A		どのような活動ができるか、一般生徒からの意見も取りまとめ話し合いを進めていく。
		中等前期・後期課程の生徒を含めた生徒会活動のあり方を、前年度に引き続き模索する。	A		縦割りの生徒会活動を充実させるための方策を模索する。
		生徒会役員選挙に多くの候補者が立候補するよう生徒の意識を高揚させる。	A		各年次担任にも、候補者推薦協力を要請し、意識の高揚を図る。
	学校行事の活性化を図る。	かえで祭の実行委員を中心に、生徒による質の高い企画・運営力の向上を目指す。	A		各部署において活動方法に工夫を図り、成功させることができた。今後も実施方法を模索していく。
		前期・後期課程の生徒が一体化したかえで祭を作り出す。	A		各年次の特色を活かしながら、より一層の充実したかえで祭を作り上げていく。
		前期・後期課程の生徒が主体的に企画運営し、スポーツデイを成功に導く。	A		生徒主体で、運営・実施できるように今年度の反省を生かしながら、来年度の計画（実施日）を立てていく。
		WRの実行委員を増やし、生徒による企画・運営力の向上をめざす。	A		実施継続を考えながら、道路事情や宿泊施設等を考慮しながらコースの変更を考える。教員の実行委員会での役割を周知徹底させる。
	ウォークラリー（WR）を通した心身の健全な育成と集団意識の高揚を図る。	体育授業での歩行練習で規範意識や生徒の体力の増進に努める。	A		WR 本番での歩行安全を考えた歩行練習と体力の向上に努める。
		生徒自ら集団歩行・行動の大切さを身につけ、お互い協力して歩行できるよう促す。	A		お互いを注意し合えるような、安全意識と規範意識の高揚を図る。
		上級生から下級生まで全校生徒が一つになり行事の成功に向かうよう働きかける。	A		全校生徒の規範意識を引き締め、安全で一体感のある WR を作りあげていく。
	キャリアパスポート事業として、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等を高める。	学級活動や部活動等で人間関係を養う能力を形成する力を目指す	A		人間関係を養う能力を形成する。
		委員会活動や実行委員会活動等でさまざまな課題を発見分析し、適切な計画を立ててその課題を処理解決することができる能力を身につけさせる	A		適切な計画、さらに解決能力を身につけさせる。
6 学習進路部 （進路指導）	6年間を見通したキャリア教育を促進し、生徒が可能性に挑戦する進学指導を実践する。	年次に合わせた進路行事の体験を通して職業観や進路意識を高める。	A	A	コロナ禍での制約の中で工夫して実施する必要がある。職業体験として実施しているクエストエデュケーションは本校生の

別紙様式 2 （中等）

(授業研究)		進路だより・進学要覧を作成し、ガイダンスとあわせて、生徒への啓発と保護者への情報提供を拡充する。	A		特性に合っている。	
		個人面談の充実により生徒に高い志と進路目標を持たせ、学習時間の向上を図る。後期課程では希望者課外において学力の定着を図る。弾力的運用の実施で授業の充実を図る。	A		質の高い情報提供を継続したい。	
		模試学力分析会・進路研修会・学習状況調査により生徒情報を共有し、面談力の向上を図る。	B		学習の内容についても質量とともにより向上させたい。そのための教員による生徒への働きかけや仕掛けを充実させていく。	
	教員の学習指導力のレベルアップを図る。	毎月の授業参観（ちょっと見週間）を実施する。クロスカリキュラム授業、ICT 活用授業、T0 授業等を取り入れた授業公開（授業の並木 3days/授業改善プロジェクト）を実施する。	A		教員の研修の充実を継続する。	
		教師向け研修会・外部教員研修参加の促進により学習指導力の向上を目指す。	A		授業の並木 3days を実施し、授業公開や研修を充実させた。公開や研修することへの教員の負担感を減らす方法を検討する必要がある。他校と合同のオンライン学習会の開催は 8 回実施し、教員の研修にもなったが、負担に偏りがあるので実施方法を検討したい。	
(学習環境)	学習環境を整備する。	ブライトホールの整備を進め、利用を促進する。	A		平日夜の教員待遇改善策として、日直制の導入を今年度から実施した。利用者増加策の継続・促進。休日は進路後援会費からの支出で警備員に委託しているため、教員の負担はないが、管理はしている。	
(図書館運営)		進路指導室の整備を進め、利用を促進する。	A		現在のレベルを維持したいが、ブライトホール同様、平日夜の教員待遇改善が困難。	
		赤本の充実を図る。	A		利用者も多いため、予算の続く限り現在のレベルを維持したい。	
	図書館運営を充実させる。	図書の充実を図り、図書室利用を促進する。	B		主に前期生の利用が中心だが、開館の維持や生徒図書委員の活用、図書館機能をより充実させるため、人員の補充の検討が必要。	
7 PCシステム	ICT 機器を整備する。(特にハード面)	教室、特別教室等の PC リース更新をスムーズに行う。	A		B	使用時の心得についてのさらなる指導および在庫品の保管体制の見直し。
		校内ネットワーク、および授業用端末のプロジェクター等への投影環境を整備する。	B	一部機器の動作不良や接続用部品の不足への対応。		
		GIGA スクール構想の円滑な実現に向け、校内環境を整備する。	A	機器の故障・パスワード漏洩などへの予防及び発生時の対応。		
	充実したホームページを再構築する。	年数を重ねて肥大したホームページの構成を見直す。管理職、広報担当の教職員と内容や構成について検討し、どの情報を誰が知りたいのかを整理する。	B	引き続き、管理職や広報担当と連携をとり、内容の精選に努める。		
8 学校事務	教育環境及び生徒の学校生活環境を充実する。	教育活動が円滑に行われるよう、設備・備品を整備する。	B	B	引き続き限られた予算の範囲内において有効活用 に努める。	
		生徒が快適かつ安全安心に学校生活を送れるよう、校舎内外の環境美化に努める。	B			
9 1 年次	学習習慣を確立し、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。	「わかる授業」を心がけ、授業や課題を通し、基礎・基本の定着を図るとともに、生徒が主体的に学ぶことができるように、「学び方」についての学習指導を行う。	A	A	学習に主体的に取り組むことができる。協働的な学びを各教科で取り入れた授業展開で、生徒同士で課題解決しつつ「学び方」も身につけることができた。	
		フォーサイトの活用を通し、見通しをもって自主的に学習に取り組む態度を育成すると共に担任・年次主任による面談を定期的に行い、個に応じた助言や支援を行う。	A		フォーサイトの活用や面談を通して、学習・生活習慣の確立に向けて個に応じた助言や支援を行うことができた。	
	礼儀正しく、他者と協働することができる生徒を育成する。	学級活動や道徳の授業の他、日常生活を通して、礼儀正しく生活する態度と互いの人権を尊重する態度を育てる。	A		社会として、礼儀、人権尊重を日常の指導で意識づけてきた。	
		きちんとした返事やあいさつができ、お互いに声をかけ活動できるような集団づくりを心がける生活指導を行う。	B		日頃の会話や集会において、あいさつが当たり前でできる生徒の育成を図った。	
	主体的に考え、判断し、行動することができる生徒を育成する。	各活動を計画的に実施するとともに活動方法について助言し、学習・学級活動・学校行事を生徒主体で行うことができるようにする。	A		宿泊や集会などの年次行事を生徒主体で行うことができた。また、ふり返りを大切に、諸課題を年次経営や学級経営に生かすことができた。	

別紙様式2（中等）

		各学習活動で探究学習を実施し、自分で問いを立て、考え、多角的なものごとを見る視野をもち、納得解を出せるように支援する。	A		問いから世界を広げる探究活動を行い、多角的な物事の見方や考え方を身につけることができた。
10 2年次	各個の実態を見極め、「基礎からの発展」と「基礎の補強」に対応する、柔軟な学習指導を充実する。	学習意欲を継続するための授業展開の工夫に努めると共に、学習意欲の減退した生徒に対する具体的で連携的な指導を実施する。	A	A	各教科において協働的な学びができる授業を工夫して行っており、学習意欲の高まりが見られている。
		自身の進路の枠組みや方向性を意識し、夢をもって生活するための生きたキャリア教育を推進する。	A		コーポレートアクセスを実施し、社会の中での職業人としての自己を見つけることができた。
	道徳的な価値観を育成し、集団生活や礼儀作法について自ら考え、行動することのできる指導・カリキュラムを充実する。	時と場にふさわしい言動をとることができるように、よりよい人間関係を構築すると共に、基本的生活習慣の確立に努める。	A		「挨拶ができる16回生」を合言葉に、いつでもどこでも誰とでも挨拶ができるよう指導を徹底してきたことで、基本的生活習慣も定着してきた。
		道徳の時間を通して、集団生活の在り方の思考と自己受容する力の育成を計画的に実施する。	A		思春期の生徒に寄り添うような教材を各担任が精選して道徳の授業を行い、道徳性が高まった。
	これまでの経験を生かして後輩を先達し、行事や学校生活に目的と責任をもって取り組む、心身共にたくましい生徒を育成する。	自ら計画性をもって諸活動に自主的に取り組むことのできる生徒の育成に努める。	A		フォーサイトを活用して自己管理ができる生徒が多くなってきている。
		教育相談の充実に努め、定期的な面談・懇談に加えて日々の雑談も大切にして、学校生活へのエネルギーを一人一人が蓄積できるようにする。	A		スクールカウンセラーとも連携し、担任一人で生徒の悩みを抱えず、専門的な知識をベースとした問題解決を行ってきた。
11 3年次	自ら課題を見つけ解決する能力をもった生徒を育成する。	自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりする場面を多く設定し、自ら考え積極的に活動できる授業を行う。	A	A	各教科において協働的な学びを意識した授業を行い、意欲的に授業に取り組む姿が見られた。
		総合的な学習の時間や年次行事において、ICTを積極的に活用したり、効果的活用を工夫したりして、生徒の思考力・判断力・表現力等の能力を育てる。	A		対象の授業や年次行事などにおいて、思考・判断の育成を意識した取り組みを行うことができた。
	社会貢献できる生徒を育成する。	進路指導、大学見学、広島京都平和研修、講演会などの体験活動を充実させ、4年後を見通した発達段階にあったキャリア教育を展開する。	A		体験活動を充実させ、今後のキャリアに必要な能力や態度の育成を支援することができた。
		様々な活動に実行委員を立ち上げ、生徒企画・運営の活動を多くすることで、人の役に立つ経験をさせ、主体性、計画性、実践力を育てる。	B		活動を経験する機会を新たに設定して、協働しながら主体性や実践力を育むことができた。
	前期課程最高年次として、他の年次の模範となる生徒を育成する。	学校のルールや、公共のマナーなどに対する意識を高める声かけを行い、実践・振り返りをする活動を取り入れる。	B		学校規則への適応を含む、生活習慣の確立を今後も指導していきたい。
		計画性への意識を高め、実践できる生徒を育成するために、自分の生活を調整できるように指導し、支援を行う。	A		定期的に面談を行い、生徒が計画性をもって生活できる支援を行うことができた。
	仲間と切磋琢磨でき、自立した生徒の育成	AL授業や道徳、学活の充実を図り、仲間がいるからこそ得られる新たな考え方や視野を広げ、自分を成長させてくれる仲間への感謝の気持ちをもてる生徒を育成する。	A		生徒同士が双方の立場で物事を考え、お互いを尊重する関わり合いを意識することができた。
		前期課程最高年次として、部活動の中心的な立場としての意識を高めさせる。積極的な参加を促し、自立した生徒を育成する。	A		前期課程最高年次として、部活動の中心で活躍する姿が見られた。
12 4年次	基本的生活習慣を育成する。	挨拶を励行し、清潔感のある身だしなみや適切な言葉遣いを意識させる。	A	A	制服を正しく着用できない生徒に対してより細かく声掛けをする。
		基本的生活習慣を身につけさせ、欠席や遅刻をできるだけしないよう健康的な生活を送るよう促す。	A		遅刻を繰り返す若干名に対して面談を含め声掛けを行う。
		心の問題を抱える生徒に対し、年次の教員全員で適切な支援を行う。	A		生徒及び家庭との連携をより細やかに行う。
		各種行事に生徒が主体的に取り組むよう促すことで、心の成長を促す。	A		年次全体でより主体的に取り組めるように指導していきたい。
		PCを活用し、情報の共有を適切かつ効率的に行うことで自律的な活動を促す。	A		間接的に情報に接する生徒に対して、自ら情報を取りにいくよう指導する。
	自律した人格の育成と学習の習慣化および基礎学力の育成を図る。	5・6年次の取り組みを参考にし、大学共通テストへの対応を念頭に、思考力・記述力を高める授業スタイルを積極的に取り入れ、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。	A		大学入試を踏まえた内容を取り入れた授業を次年度も展開していく。
		授業や週末課題を通して高い目標に結びつけられるような学習課題を与え、課題に対して自ら考え抜いて取り組む力を育成する	A		さらに生徒の考え抜く力を育成すべく、自年度も意欲的な学習課題を提示していく。
		小テスト、週末課題、模試等を活用しながら、学習の習慣化および学力向上を図る。	A		次年度も小テスト、模試等を活用しながら学力向上を支援していく。
		学習過程の蓄積、学習時間の記録等にICTを活用し、学習量の増加を促す。	B		ICTを用いて学習量の推移を可視化し、さらなる学習量の増加を促すようにする。
		個人面談を複数回実施し、生徒の学習状況把握に努めるとともに、適切な助言を行う。	A		次年度も個人面談で生徒の学習状況等について情

別紙様式2（中等）

					報を共有し、適切な助言を行うようにする。
	自己理解と進路意識の高揚を図る。	LHR、総合的な学習の時間等を活用して、生徒全体かつ個々に対して進学に関するアドバイスや情報提供に努めることにより、文理選択や難関大学への進学を早期に意識させる。	A		次年度も年次集会等を通して進学意識を高揚させるよう努める。
		進路講演会、大学見学会、OBOGガイダンス等により、自己理解と進路意識の向上を図る。	A		次年度も同様の行事を設け向上に努める。
13 5年次	基本的生活習慣を育成する。	進路情報誌を活用して進路への興味関心を高め、自ら情報を収集する生徒を育成する。	A	A	次年度も生徒自身で活用する場面を設ける。
		挨拶を励行し、服装指導、清掃指導を徹底する。	B		後輩に範を示せるよう引き続き丁寧に指導していきたい。
		基本的生活習慣を身につけさせ、遅刻をさせないとともに、話をしっかりと聞く態度を養う。	B		遅刻については改善傾向にある生徒も多いが継続的な指導が必要である。
		生徒との面談を定期的を実施し、生徒理解や生徒の心の悩みを把握する。	A		数多く実施することで生徒の心のケアに努めた。
	学習習慣と基礎学力を育成する。	ICTを活用し、情報の共有を図ることで、自主的・利他的に行動できる生徒を育成し、志の高い集団形成を図る。	A		常に生徒の自主性を高めることを意識しながら指導した。
		大学共通テストへの対応を念頭に、思考力を高める授業スタイルを積極的に導入し、応用・発展へと広がりのある授業を展開する。また、効果的に課外を実施し、国公立大学の二次試験に対応できる論理力・表現力を育成する。	A		各教科において入試を意識した授業が展開されており、学力が向上している。
		小テスト、週末課題、模試等の実施による学習の習慣化および学力向上を図る。	A		各教科において計画的に実施されている。
	異文化理解と自己理解について考察を深める生徒を育成する。	学習時間の記録や保護者との情報の共有にICTを活用し、集団としての学力向上を図る。	A		Classroomを利用した保護者との情報共有は好評である。
		修学旅行を通して、異文化理解を進め、異文化から自国の文化を再確認する。また、自分から異文化に対して発信する力を養う。	A		修学旅行を無事に実施することができ、生徒にとって有意義な研修にできた。
		最終年次に向けて、大学出前授業や進路講演会をとおして自己理解を深め、進路意識の向上を図る。	A		各進路行事や年次集会を通じて受験生としての自覚を持たせることに尽力した。
14 6年次	規律と活力ある基本的生活習慣・学習習慣を育成する。	服装・挨拶・清掃・遅刻指導を徹底することで、基本的生活習慣や社会力を育成する。	B	A	概ね良好であったが、11月以降の遅刻・欠席が目立った。
		わかりやすい授業を展開し、授業を大切にする雰囲気作りに努め、家庭学習の習慣化を図り、志望進路に対応できる学力を定着させる。	A		年次内で共通理解を深め、丁寧な進路指導が必要である。
	生徒間、生徒と教師間の信頼感を醸成し、集団としての凝集性を高める。	主体的な学習集団を目指し、セルフスタディースペースやブライトホールの活用を促し、お互いに切磋琢磨する雰囲気の醸成に努める。	A		HR・集会等で常に最上年次である自覚を持つことを意識させる。
		担任および副担任との面談に加え、主任、副主任など年次職員との面談を行い、クラスの枠にとらわれず6年次職員団として生徒情報の共有を図る。	B		面談内容の共有時間の増加と方法の工夫が必要である。
	志高い進路意識の維持による進路実現を図る。	学年集会や進路講演会での講話をとおして、生徒の第一志望への意欲を維持させる。また、利他的に行動することを意識させ、集団で受験に向かう環境を作る。	A		年次集会を計画的に企画。運営できたことは次年度への収穫となった。
		LHRや総合的な学習の時間においては、将来への目標確認を行うことで、自らのキャリア観を意識させ、課外学習においては、質の高い学力の向上を図る。	A		課外授業の企画・運営も計画的にできた。効果の検証と次年度の引継ぎが必要である。
	最上級生としての自覚により、下級生に範を垂れる。	年度前半の学校行事や部活動に悔いなく取り組ませることで、最上級生としてのリーダーシップを発揮させる。	A		切り替えを促し、環境設定を行っていく。
		縦割り活動をとおして、最上級生としての振る舞いを自覚させることで、並木中等の学風をつくる覚悟を促す。	B		行事等縦割り活動のチャンスを活かし、後進の指導に当たる。
15 国語科	基本的な学習習慣の定着を図る。	学習ガイダンスを重視し、こまめに行うことで、学習の見通しを持たせ、計画的に学習しようとする態度を育てると共に、予習・復習の学習習慣を身につけさせる。	B	A	学年が上がるにつれて、予習、復習の習慣が定着しているように感じる。
		単元ごとに到達目標を提示し、段階に合わせた授業計画と評価計画を提示する。R80や小テストなどを活用し、生徒が学習内容を振り返ることができる機会を設ける。	A		
	読解指導の深化を図る。	論理的文章・文学的文章の読解法について解説する中で、幅広い分野の文章について根拠を明確に、客観的に読解できる力を育成する。	A		TO学習を取り入れ、他学年の生徒から能動的に教わる、生徒が教えることを通して学ぶ機会を作ることができた。
		AL型授業展開をすることにより、他者との関わりの中での学び合いの機会を設けることで、読解力の向上を目指す。	A		
	「書くこと」の指導を徹底する。	「読むこと」や「聞くこと」と関連させながら、ノート指導を基本とし、書くことを通して思考をまとめる方法を学ばせるようにする。	A		提出課題の添削指導等を適宜行っている。担当者が変わっても継続的な指導ができるように心がけたい。

別紙様式2（中等）

		各年次に合わせた添削指導を行うことにより、論理的な文章表現力の向上を図る。	A		
	「聞く」態度の育成と適切な話し方を育成する。	正しく内容を理解するために、状況に応じて「聞く」、「聴く」、「訊く」の3種類の「きく」を使い分けられる生徒を育てる。メモを活用した聞き方についても指導を行う。	B		前期生は「話す」場を多く設定した。「聞く」ことについては、書きながらにならないよう、切り替えが必要である。
		他者と話す場、発表の場を適宜設定し、場と内容に応じ、聞き手を意識した「話し方」を工夫しようとする態度を育てる。	A		
	研修機会の充実を図る。	研修会等に積極的に参加して、授業作りの参考になる情報を集めて活用する。	A		ちょっと見の授業について感想交換などを定期的に教科会で行っている。他学年の進度や様子も把握できるので、継続していく。
		定期的な教科会を開くと共に、互見授業を行うことで年次進行に合わせた授業法の研究を行い、新たな指導法の構築を図る。	A		
		他教科の授業を積極的に参観し、指導法の工夫を取り入れる。	A		
	生徒による授業評価（授業満足度）肯定的評価 80%以上を目指す。	生徒一人一人に寄り添い、個に応じた助言・指導を心がける。 生徒とともに教員も研鑽を積み、よりよい授業作りを常に意識する。			生徒による授業評価、特に自由記述のコメントを今後の授業に生かしていく。
16 社会科	6年間を見通した教科指導体制を構築すると共に、各時期において身につけるべき能力を明確にして授業実践を行う。	シラバスを活用し、観点別学習状況評価を円滑に実施すると共に、各年次での学習目標を明確に提示した上で実践を行う。	B	A	各観点の評価方法やテスト問題の作成について共通理解を図る。
		相互授業参観などを通し、生徒の発達段階に応じた学習内容と方法を検討し、実践に生かす。 ・基礎期（中1～2） 課題を追究・解決する活動を重視する。 ・充実期（中3～4） 社会的事象を地理・歴史・公民分野の観点から多面的・多角的に考察し、その意義や特色、課題をとらえる。 ・発展期（中5～6） 進路実現に必要な学力を養成する。	A		各年次の特性について教員間の情報交換を密にして、基礎期から充実期、充実期から発展期へと学習の円滑な接続を図る。
	生徒主体の授業の展開を常に意識し、学習意欲を喚起するための指導・評価の工夫と改善を図る。	・教科会での話し合いを生かしながら主体的な学びにつなげられるような学習課題の設定や発問の工夫を継続する。 ・ICTを積極的に活用し、課題探究に対する意欲を高めると共に、思考力や表現力の育成を図る。 ・自身の考えを論理的に記述したり表現したりするなど、言語活動の充実を図る。 ・TO学習やクロスカリキュラム学習などを取り入れ、学年や教科・科目の枠を越えて学ぶことで豊かな人間性を育む。	A		教科会等で実践事例の共有などを行い、主体的・対話的で深い学びの実現に継続して取り組む。
		基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける取組 ・課題提出や小テスト、家庭学習の効果的な方法などの指導を通して基礎・基本の習得を図る。 ・課外授業や添削活動・模擬試験を有効活用する。	A		授業を核として、各個人の課題に応じた個別最適な学び（家庭学習など）を実現できるように取り組む。
	生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）」で肯定的評価 80%以上を目指す。	A		個別の要望について解決策を検討していく。
	基礎・基本の定着とともに、論理力を高め、応用力を育成する。	生徒が考えればわかる、やれば解けると思えるように、アクティブ・ラーニングを踏まえた授業展開やICTを活用した説明方法を工夫する。	A		導入の仕方や発問内容を工夫する。
		定期的に課題を与え、家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着を図る。	A		基礎学力定着の重要性を説き自発的行動を促す。
		定期テスト、実力テストの問題検討に十分時間をとり、基礎・基本の定着、論理力、応用力の育成までを目的とした問題を作成し、出題する。	A		年次ごとに課題を精選し、思考力を養う問題を作成する。
		生徒の学力に応じて学習内容を精選し、深化的・発展的な内容の学習も行う。	A		年次担当者間で意見交換の時間を十分に確保する。
		SSHの取り組みを踏まえ、他教科と協力して教科横断型の授業などの数学的活動の充実を図り、探究力・論理力の育成を目指す。	B		学習進度に応じて入試問題の提示や探求力を養う。
17 数学科	学習意欲を喚起する指導を工夫する。	課題や課題提示の仕方を工夫し、生徒たちの知的好奇心を喚起する。	A	A	身近な導入から好奇心を喚起する。
		ICTを積極的に活用し、数学的な思考力・表現力の育成を目指す。	A		視覚教材の利用を積極的に行う。

別紙様式2（中等）

		きめ細かな指導をするため、習熟度別学習・少人数学習を工夫改善する。	A		6年次での習熟度授業を充実させる。
	生徒の能力差をふまえ、個に応じた指導を充実する。	生徒の実態を把握し、個に応じた助言・指導が行えるようにする。	A		少人数，習熟度の授業を実施する。
	生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）」で肯定的評価60%以上を目指す。	A		生徒による授業評価、特に自由記述のコメントを今後の授業に生かしていく。
18 理科	基礎力の定着、学力の向上を図り、探究の過程を学ぶ効果的な学習法・指導法を開発する。	オリジナルプリントや小テストなどを活用して、時間を効率的に使い、演習時間などを多くとり、基礎学力の徹底を図る。	A	A	知識問題を落としてしまっている生徒のフォロー実施。
		アクティブ・ラーニングやICT活用、TO学習等により生徒の主体的学習態度の育成を図るとともに、教科会で指導法を共有することで指導力の向上を図る。	A		課題解決型の授業の拡充。
	SSH第3期目の推進及び第4期目に向けた、つくばという立地を生かした授業研究の充実を図る。	つくばの研究所や施設を利用した地域との連携、筑波大学などとの高大連携により、生徒の探究力・論理力の育成を図る。	A		連携による学びの深化。
		ICTや外部講師を活用した出前授業等を研究する。	A	A	カリキュラムに応じた内容の採用。
	6年間の系統的なカリキュラムを実践・修正する。	SSHで開発してきたSS科目により、高校教科書の一部を先取りして学習し、スパイラルを生かした7カリキュラムを実践し、前期から後期への接続の体系化を図る。	A		学習進度・習熟度に応じて入試問題の提示やその添削などを行う。
		同じ科目を教える教科担当同士が密に連絡を取り合い、スムーズに接続できるようにする。	A		分野ごとの連携強化。
	生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）」で肯定的評価80%以上を目指す。	A		定期的な実施。
19 英語科	総合的なコミュニケーション能力を育成する。	言語の使用場面を考え、4技能のバランスのとれた言語活動を行い、オーセンティックな題材や視聴覚教材を取り入れた授業を展開する。	A	A	4技能のバランスに配慮し特にスピーキングの部分を強化していく。
		授業導入時や展開時における日常会話や音声表現活動（自己表現活動）を実施する。	A		実践的なコミュニケーションを意識した表現活動を引き続き取り入れていく。
	基本的な英語力を構築する。	自主学習ノートの定期的な提出やこまめな小テストの実施・評価と共に、効果的に生徒へフィードバックを行う。	A		適切なフィードバックや必要に応じての支援により、よりよい英語学習につなげていく。
		辞書の活用を奨励し、語彙を増やすことを目的とした諸活動を実施する。	A		前期生は辞書の使い方から学ばせ、徐々に電子辞書やその他辞書アプリの使用による効果を検証していく。
	英語を用いた言語活動を積極的に行える力を育成する。	プレゼンテーションやディベート活動といった発展的な言語活動を通して、自分の意見をきちんと英語で表現できる力を養う。	A		引き続き積極的に活動をするために様々な工夫を研究し、実践する。
		教科書だけでなく様々な補助資料を用いて異文化理解を進める。	A		幅広く興味・関心を引く教材研究に努める。
	国際的な視野を広げる言語活動を構築する。	ALTや留学生とのコミュニケーション活動を通して、様々な考えに触れる機会を設ける。	A		3人のALTのより効果的な活用のために教材を充実させ、職員共有する。
		プレゼンテーションフォーラムなどに積極的に参加し、意欲的に言語活動に取り組む機会を設ける。	A		英語指導におけるALT各人を最大限に活用する。
	6年間を見通した英語科としての指導形態を確立し、発展させる。	教科会や「ちょっと見週間」等を通して、各年次における授業の検証と継承を行い、並木英語科スタンダードを確立・発展させていく。	A		6年間の指導内容と教材を調整し、十分に共有する。
		公開授業等を通して、本校での授業形態を外部に向けても発信し、県内の英語教育のリーダー的役割を担っていく。	A		授業や課題・課外を含む並木の英語教育を検証し更なる発展に向けて引き続き研鑽を積んでいく。
	生徒の声を反映させた授業評価を生かした授業内容、授業環境の改善を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）」で肯定的評価80%以上を目指す。	A		生徒が目指していることと教師が目指していることの一致をはかる。
20 芸術科（音楽）	音楽表現における基礎的能力の向上を図る。	表現活動に必要な知識と技能の定着を図る。	A	A	今後も授業冒頭のトレーニングを継続的に行う。
		反復練習を重視し、表現に必要な技能や能力を養う。	A		上記同様、授業冒頭で行うトレーニングを今後も継続していく。
	幅広い表現活動を充実する。	グループ活動・全体共有の時間を効果的に設定し、表現の多様性を認め尊重し、自らの表現に生かす能力を養う。	A		グループで発表会を行う場を複数設けることができた。
	ポイントを押さえた鑑賞教育を充実する。	共通事項や歴史的背景など、幅広い切り口から音楽を知覚する能力を養う。	B		歴史的背景は紹介するにとどまったので、今後は鑑賞・創作の授業を中心に、歴史的背景を考えていく授業を展開する。
		音楽の諸要素と、それが何を表現しているのか考え、表現する能力を養う。	A		創作発表会により、自分が表現したい音楽にはどのような諸要素が必要なのかを考えることができた。
	創作活動を充実する。	基礎知識を用いながら意図をもって創作を行い、発表する活動を行う。	A		生徒が自ら運営し、クラス全員が創作曲を発表する「創作発表会」を行うことができた。

別紙様式2（中等）

	生徒の声を反映させた授業評価を生かした授業内容、授業環境の改善を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）で肯定的評価 80%以上を目指す。	A		生徒が音楽で自己を表現する喜びを味わうことができた。
21 芸 術 科 （ 美 術 ）	基本的な美術の能力を育成する。	体験活動を充実させ、美術の基礎知識を身につける。	A		素材に出会い、作品にするまでの過程を知ることができた。
		色彩の効果を考えて構想を練り、材料や用具の生かし方を考え、工夫してあらわすことを意識づける。	A		まずは、絵の具を混ぜることから始めて、たくさんの施策をすることに重きを置いた。
	柔軟な表現活動を育成する。	豊富な知識や表現方法を能動的に活用する喜びを養う。	A		上手く制作できている生徒の方法を共有するなどした。
		自他の価値観を認め、内面的なイメージを豊かに表現する力を持って表現活動する。	A		グループを組み、まずはイメージを言葉にするなどアイデア出しを大事にした。
	鑑賞活動の充実を図る。	自国や外国の美術文化の特徴を理解し、優れた伝統美術に関心を持つ。	A		まずは、純粋に作品を鑑賞し、その後で歴史的な側面から知ることの重きを置いた。
		作品や作家の言葉から美術の多様性に気づき、自分の表現に生かそうとする態度を養う。	B		授業で鑑賞と制作の時間が分かれてしまった。
	美的体験を日常生活に生かす。	実生活に活用できるような、情報やイメージを効果的に伝えるデザインする力を育てる。	A		身近なものに隠されたデザイン性の高さに注目し、真似て作ることで改めて美術の知識が重要であることに気づけた。
		絵画や彫刻・工芸などを暮らしに役立てる感覚を身につける。	B		彫刻と工芸については、深く学べていない。
	生徒の声を反映させた授業評価を生かした授業内容、授業環境の改善を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）」で肯定的評価 80%以上を目指す。	B		生徒評価に寄り添い、さらに授業の密度を高めていきたい。
22 保健体育科	体力と精神の調和的発達を図る。	学習活動への積極的な参加を通して体力の向上と精神面での成熟をめざす。	A		I C T機器の活用や実習により、生徒の能動的な学びに結び付ける。体力テスト上位者を表彰した。
		体つくりのための効果的な運動を実践する。	A		体づくり運動で体力を高める運動の取り組み強化と、各種目の準備運動時に補強運動を導入した。
		自己の課題に応じた運動を実践する能力を養う。	A		体力テストの結果を基に、自己の状況を把握させる。
	一人一人が豊かなスポーツライフを実践できるようにする。	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		個々の能力に応じた運動で楽しめるルール作りを行っていく。
		スポーツに関する知識を身につけ、「するスポーツ」だけでなく「見る」「支える」ことの意義や楽しさを体験する。	A		前期生は多くの種目を経験させ、指導も教員の専門種目を生かした担当制を導入した。後期生は種目選択を行った。
		様々なスポーツのルールを理解させる。	A		段階的な指導を継続し、ルールの定着を図る。
	スポーツマンシップを育成し人間力を向上させる。	規律ある行動を繰り返し行う。	A		4 月の授業時に全学年、集団行動を徹底して指導し、継続できるようにする。
		あいさつを励行する。	A		授業開始・終了、ゲーム開始・終了時における挨拶を徹底した。
		マナー、ルールを尊重することを常に意識させる。	A		常に声かけを行い、フェアプレー精神を常に意識させる。
	生涯を通じて健康に留意しながら安全に過ごすための、バックボーンとなる知識や考え方を習得させる。	心身の発達と心の健康について探究する。	A		心身の相関を理解させる。
		健康と環境、障害の防止について探究する。	A		健康を保つためには、多面的に環境を整備していくことが大切であることを理解させる。
		健康な生活と病気の予防について探究する。	A		各自の生活習慣や食習慣を改善し、規則正しい生活習慣を身に付けさせる。
	生徒による授業評価を生かした授業の改善を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）」で肯定的評価 80%以上を目指す。	A		発達段階や個々の能力に応じた指導等、授業展開を工夫する。
23 技術・家庭科における技術分野	科学的な理解と技術の習得を図る。	図や表を用いて、他者に説明する活動を通して、知識の定着を図る。	A		継続して、図や表を用いたプレゼンを実施していく。
		知識で得たものを実践、応用することで、技能の習得を図る。	A		知識を獲得した後、様々な機会 で得た知識を活用する実践的授業を継続していく。
	思考力・判断力・表現力等を育成する。	生活の中で問題を見つけ、論理的に考えて解決まで導けるよう授業を展開する。	A		課題を見つけ、解決策を考え、理論的に考えることを継続していく。
		技術が発展した未来を想像し、課題解決を意識した授業を展開する。	A		Society5.0 に焦点を当て、未来を意識した授業を促していきたい。

別紙様式2（中等）

	学びに向かう人間性を喚起する学習指導を充実する。	グループ活動を取り入れた教え合い・伝え合いの授業展開から、協働的な学びを行う。	B		プレゼンの作成において、協働的な学びを継続していく。
		実習や課題解決的な学習を取り入れ、最後までやり遂げようとする主体的な学びを行う。	B		課題に対して、学びを調整し粘り強く取り組むように努める。
		生徒が主体的に学ぶ意識をもてるようにする。	A		生徒の課題に対する提案について、肯定的評価が90％を超えたので、継続していく。
24 技術・家庭科における家庭分野	生徒の学習意欲を喚起する。	生徒の興味・関心に応じ、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	A		知的好奇心を喚起する教材研究を継続していく。
		実験や実習を効果的に行い、体験的に学べるようにする。	A		各分野で実験や実習を効果的に行い、体験的に学ぶことを継続していきたい。
		グループ活動を取り入れ、自主性や協調性を伸ばすとともに、楽しい授業の実施を工夫する。	A		自主性や協調性を伸ばす授業を継続していく。
	科学的な理解と技術の習得を図る。	他教科との関連を図りつつ、生活を科学的にとらえる授業を展開する。	B		生活を科学的にとらえる態度を育成していきたい。
		基礎的・基本的な技術を習得できるような実習を行う。	A		基礎的・基本的な技術を習得できる教材を工夫していく。
	生活の場での実践力を育成する。	生活の中で、学んだことを生かす態度を育てる。	A		身に付けた知識や技術を生活に生かしていくよう努める。
	新教育課程にあった教材の研究を行う。	「生徒による授業評価（授業満足度）」肯定的評価 80％以上をめざし、よりよい授業作りを常に意識し教材研究を行う。	A		より良い授業作りを常に意識し、教材研究を継続していく。
25 情報科	I C T活用及びコミュニケーション能力を育成する。	情報の検索、加工、発信という基本的なI C T活用プロセスを扱う。	A	A	現行通りで問題なし。
		グループワークや他とのコミュニケーションを重視した実習を行う。	A		現行通りで問題なし。
		プログラミング言語を用いて演習を行う。	A		現行通りで問題なし。
	情報倫理を育成する。	知的財産権について、いろいろな場面で扱う。	B		情報モラルや法律などに触れる機会を増やす
		情報倫理について、自分で判断できるように指導する。	A		現行通りで問題なし。
		情報モラルを重視した指導を行う。	A		現行通りで問題なし。
	他教科や外部組織との連携を図る。	学校行事・課題探究とリンクした実習を取り入れる。	B		学習カリキュラムの検討
		他教科や外部組織との連携をいろいろな場面で試みる。	A		現行通りで問題なし。
	生徒が主体的に学ぶ意識をもてるようにする。	生徒による生徒の主体的な取り組み評価で肯定的評価 80％以上を目指す。	B		グループワークや個人学習の活動時間を確保する。
26 道徳	望ましい生活態度を身につけ、互いの個性を尊重し、自主的・自律的に行動しようとする態度を育成する。	生徒の実態や学校行事、教科間の関連を把握した上でその実態に応じた題材を提示することに努める。	A	A	適切な教材を発掘し、提示することができた。
		道徳に関する活動の中で考えたことが、学校生活のよりよい人間関係の構築や円滑な生活の維持に生かせることを実感できるようにする。	A		生徒の社会性が向上するきっかけを提供した。
		公民科をはじめとする各教科の授業やホームルーム活動において、学級やグループ内で意見交換や話し合いの場を設け、他者の意見を基に自己の考えを深化できるようにする。	A		公共の授業を通じて有意義な意見交換ができた。
		授業で考えたことを、従前の自己の生活や考え方と比較し、今後の生き方に反映できるように振り返る場面をつくるようにする。	B		活動の振り返りの時間を確保したい。
27 学級活動	学校全体や、各年次、各クラスで、生徒主体の活動の促進を図る。	生徒会主催の全校集会や、生徒主体の年次集会を開催し、生徒自らが積極的に企画運営できる能力を育てる。j	A	A	年間を通して、生徒主体の集会等を行っていく。
		学級での一人一役の実践と工夫を図る。	A		引き続き実施する。
	集団や社会の一員として望ましい人間関係を構築し、よりよい生活環境を築こうとする態度や自己を生かす力を養う。	校外学習等において、生徒主体の企画・運営をする能力を育てるとともに、集団の一員として望ましい人間関係を構築できる能力を培う。	A		生徒が企画・運営する活動を積極的に行っていく。
28 総合的な学習の時間	自分の興味あることについてのテーマを設定し、そのテーマに基づいて調べ学習を展開することで、情報収集能力や情報活用能力、考察力、プレゼン力を育成する。	「かえてツーリスト」というテーマのもと、自分の住んでいる地域を実際に歩いたり調べたりなどして、地域再発見の機会を設け、情報収集能力や情報活用能力、プレゼンテーション能力（発表資料作成）を育成する。（1年）	A	A	テーマについて情報を収集する能力、調べた内容を深める能力、伝える能力を総合的に高めることができた。
		「ミニ課題探究Ⅰ」において、「ソーシャルチェンジ」を実施し、社会課題を考えるトレーニングを行い、多面的な視点で世界を眺め、自分だけの問いをもち深めることができる資質を養う。（1年）	A		問いを見つけ出し、深める行程を経験し、社会課題について発信することができた。
	テーマを追究し、課題を解決する課程において、課題発見能力、課題解決能力を育成する。また、自分の将来の夢や職業を意識し、進路実現にむけて行動する力を育成する。	「ミニ課題探究Ⅱ」において、「クエストエデュケーション」を行い、企業から出されたテーマについて探究活動を行う。この活動において、探究の過程の手法を学び、分析力や表現力、論理力を育成する。（2年）	A		企業の一員としてインターンシップ体験に取り組み、課題に対して探究的に学ぶことができた。
		「キッザニアかえて～将来の職業について考えよう～」というテーマのもと、自分に適した職業を知る活動や職業調べを通して、自分の将来の夢や希望を意識し、実現にむけて行動する力を育成する。（2年）	A		多様な職業についての理解を深めることができた。
	課題研究を通して、グループで学び合う力、テーマ設定能力、データを分析・考察する力を育成する。また、自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。	「かえてユニバーシティ～卒業後の進路について考えよう～」というテーマのもと、大学の学部・学科を調べる活動や文化祭におけるキャリアアトラクションの企画立案・実践を通して自分の将来や卒業後の進路に向けて行動する力を育成する。（3年）	A		文化祭では、例年よりも限られた時間の中で、創意工夫を凝らして学部学科に関する調べ活動・発表・催し物を開催することができた。
		「ミニ課題研究Ⅲ～地域の社会問題を解決しよう～」というテーマのもと、インタビュー、体験活動、フィールドワークやレポート作成を通して、グループで学び合う力、テーマ設定能力、データを分析・考察する力を育成する。また、広島・京都（東北地方）の研修旅行を通して地域の社会問題を見つめ、訪問都市の事例を地域の活性化に還元できるような力を培っていく。（3年）	A		京都・広島方面の平和研修のグループ研修の立案から実際の訪問、見学を通して、生徒自らがたてたフィールドワークの目的を達成することができた。
	6カ年教育における諸活動を通して、自らの生きる道を、	大学出前授業、進路講演会、文理選択説明会、大学見学会、卒業生との相談会などの進路学習を充実させ、進路に対する視野の拡張と難関大学への意識を高める。（4年）	A		生徒個々の希望進路に合わせた進路に対する視野を広げる

別紙様式2（中等）

	主体性をもって選択し決断できる能力を育成する。				よう努めていきたい。
		道徳の授業を通して、職業観や生き方に対する意識を高める。（4年）	A		今後も外部講師の講演等からキャリアについてさらに意識を高めるようにしたい。
		「異文化理解と自己理解」というテーマで、修学旅行と語学研修を実施し、他者を理解し、多様性を認めると共に、自己の文化を発信する力を養う。（5年）	A		計画通り修学旅行を実施し、各目標を達成することができた。
		自己の進路について、多方面から情報を集めることで具体的な進路を見いだせるような一助とし、終年次に向けて意欲の向上を図り、進路実現を目指す。（5年）	A		時期ごとに進路について考える機会を設けることができた。
		「進路実現と主体的な生き方の模索」というテーマで、進路情報の収集を進める一方、進路講演会などをおして、その都度自己を見つめ直す機会も設ける。（6年）	A		適時に収集した情報を十分に生かし、進路実現に生かした。
		並木中等での6年間の総括をすべく、時期により作文やレポート作成を行い、振り返りと将来への展望を促す。（6年）	B		目標と現状を比較しつつ、PDCAにかなう取り組みができた。

※ 評価規準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない